

第13回 縄文楽検定 中級 解答集

令和3年6月作成

テキストから72%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）

テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）

火焰土器の国：新潟県立歴史博物館編『火焰土器の国新潟』（新潟日報事業社、平成21年4月刊行）。

日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化 ガイドブック』

（信濃川火焰街道連携協議会、令和2年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）

聖火台アピール宣言：「火焰型土器を2020年東京オリンピック・パラリンピックの聖火台に」アピール宣言について

※テキストⅠの()内は、『火焰土器の国新潟』内のページ番号です。

No.	解	問題の出典と解説
1	b	テキスト外 縄文土器で指定されているのは新潟県笹山遺跡出土品だけで、他の5件は土偶です（北海道函館市、青森県八戸市、山形県舟形町、長野県茅野市(2件)）。
2	c	テキストⅠ p5など aは津南町堂平遺跡出土の火焰型土器、bは三条市長野遺跡出土の火焰型土器、cは長岡市岩野原遺跡出土の火焰型土器です。
3	d	テキストⅠ p8(139)、テキストⅡ p20 a昭和11年(1936)は馬高遺跡で「火焰土器」が発見された年、b昭和54年(1979)は馬高遺跡が国史跡に指定された年、c平成2年(1990)は「火焰土器」が国の重要文化財に指定された年です。
4	c	火焰土器の国 p32～40 aとbは長岡市岩野原遺跡出土、ウは長岡市山下遺跡出土の火焰型土器です。 火焰型土器は、時代が新しくなるにつれて器形が縦長で、頸部のくびれが大きくなるとともに、鶏冠状突起が上に向かって高く伸びていきます。ウは鶏冠状突起が完成しておらず、4つの突起の大きさも不統一です。研究者によっては、これを火焰型土器に含めない人もいます。イとアは火焰型土器としての要素がきちんと揃っています。ウとは異なり、4つの鶏冠状突起が同じ大きさにです。イは鶏冠状突起が低く横長で、器形も寸胴で古い様相を示します。一方、アは鶏冠状突起が縦に伸び、頸部がくびれた器形となっていて、より新しい段階に分類されます。
5	d	火焰土器の国 p42
6	b	テキスト外 誤っているものを答えるのは難しく、消去法で考えてみましょう。
7	c	テキスト外 分析の結果、堅果類の粉を練って作っていることがわかっています。
8	a	火焰土器の国 p11、テキストⅠ p14(145)など 勝坂(かつさか)式と円筒上層(えんとうじょうそう)式は中期の土器型式で、加曾利(かそり)B式は後期、亀ヶ岡式(かめがおかしき)は晩期の土器形式です。勝坂式土器は西関東から甲信越を中心に広く分布し、円筒上層式は東北北部から北海道南部を中心に広く分布しています。
9	補修	テキストⅠ p17～18(148～149) 補修孔と呼んでいます。惜しい解答として「修繕」「修復」というものがありました。意味としては通りますが、修繕孔、修復孔という用語はありません。
10	b	テキストⅠ p14(145) 土器型式についての総合問題です。大木(だいぎ)式土器が東北系であることが分かれば、正解に近づくと考えられます。
11	b	テキストⅠ p1(132)
12	c	テキストⅠ p1(132)

13	c	テキスト I p22(153) 姫川流域周辺で産出する蛇紋岩は、縄文時代、特に磨製石斧の石材として利用されました。
14	チョコレート	火焰土器の国p20 信濃川火焰街道連携協議会顧問である小林達雄・國學院大學名誉教授の命名です。板チョコが溝に沿ってきれいに割れるように、土偶も壊れやすく作られたと考えられています。
15	a	テキスト I p11(142) 王冠型土器の短冊形突起には、左側に抉り(えぐり)が入るという共通した特徴があります。まれに左右両側に抉りが入るものもありますが、右側にだけ抉りが入るものは今のところ報告されていません。このことから、aを見ると写真の左右が反転していることがわかります。
16	a	テキスト外 この土偶はお腹の部分が大きく割れて内側が見えるため、製作方法を知ることができます(参考:日本遺産ガイドブックp30)。内側に見える線は粘土紐を積み上げた輪積み痕です。縄文土器と共通するつくり方で、長岡市馬高遺跡出土の大形土偶「ミス馬高」をはじめとする他の土偶や、三角形土製品とは大きく異なっています。
17	d	火焰土器の国p4、日本遺産ガイドブックp1 設問に誤りでbが二つありました。これがヒントになったと思います。
18	b	テキスト I p19~20(150~151)
19	c	テキスト外 十日町市久保寺南遺跡からは、縄文時代草創期の隆起線文土器のほか、石槍をはじめとする多彩な石器群が出土しており、当時の生活の様子を知るうえで重要な遺跡です。土器に付着した炭化物の分析から約15,000年前という年代が得られています。
20	b	火焰土器の国p86 十日町市笹山遺跡出土の深鉢形土器。口縁部の把手に三角形土版が貼り付けられています。把手を横から見ると獣のようでもあり、とてもユニークな土器です。一見すると火焰型土器のようにも見えますが、良く見ると鶏冠状突起がなく、胴部文様も平坦で余白があるのがわかります。
21	c	テキスト I p16~17(147~148)
22	b	火焰土器の国p18 釈迦堂遺跡からは1,116点に及ぶ土偶破片が出土しています(ちなみに全国最多は青森県の三内丸山遺跡とされます)。c三条市吉野屋遺跡は、新潟県内トップクラスの土偶出土点数を誇りますが、それでも100点を超える程度です。a粥見井尻(かゆみいじり)遺跡からは、日本最古級、縄文時代草創期の土偶が1点出土しています。d棚畑遺跡は縄文時代中期の集落で、国宝の土偶(縄文のビーナス)が出土しています。
23	a	テキスト外 bは石灰岩の説明として良く使われます。
24	d	テキスト外 馬高・三十稲場遺跡(長岡市)、沖ノ原遺跡(津南町)、藤橋遺跡(長岡市)は新潟県を代表する縄文時代の国史跡です。的場遺跡(新潟市)は国史跡ではありません。消去法で考えてみましょう。
25	雪国	日本遺産ガイドブックなど
26	突起	聖火台アピール宣言 縄文土器には器として必要のない突起がつけられます。これは他の周辺地域、大陸には全く見られないものです。
27	b	テキスト II p21 幅上遺跡は縄文時代中期の集落跡です。魚沼地域の遺跡では、縄文時代中期において、石器組成に占める打製石斧の比率が高くなる特徴があり、同じ十日町市の笹山遺跡や、津南町の沖ノ原遺跡、魚沼市の清水上遺跡でも同じような傾向にあります。
28	c	テキスト I p21(152)

		c魚沼市正安寺遺跡出土の石棒は、中ごろに黒い帯あり、その上(先端方向)は赤く変色しています。これは被熱を受けた痕跡です。黒色帯の下は変色等がなく、その差が明瞭なため、ここが土に埋められていた部分だと考えられています。a十日町市芋川原遺跡出土の石棒は、渦巻き模様が陽刻されるもので、数ある石棒の中でも優品の一つです。b長岡市馬高遺跡出土の石棒は、側面が砥石のようにくぼんでいます。a～cのように、破損していない石棒は実は少数で、多くはd長岡市中道遺跡出土の石棒のように、折れた状態で出土します。
29	b	火焰土器の国p128、日本遺産ガイドブックp35 昭和62年(1987)、JR長岡駅の新幹線コンコースに設置されています。新幹線を利用する際にぜひご覧ください。
30	a	火焰土器の国p104～105 火焰型土器が作られた時代の竪穴住居は、平面形が円形あるいは卵形のもの、そして長方形のものがあります。正方形やそれに近い形をしたものは、縄文時代前期に見られます(十日町市干溝遺跡など)。一方、三角形や星形の竪穴住居は見つかっていません。
31	c	テキスト外 c長岡市岩野原遺跡から出土したもの。小形の石皿にクッキー状炭化物がのっています。d津南町沖ノ原遺跡でもクッキー状炭化物が出土していますが、沖ノ原遺跡のものは、丸い玉のような形状をしています。
32	土器 ストーリー、日本遺産ガイドブックp2	
33	b	テキスト I p25(156) b野首遺跡は火焰型土器・王冠型土器の復元個体数が最も多い遺跡です。a卯ノ木遺跡は縄文時代早期の遺跡、c赤松遺跡は縄文時代晩期の遺跡で、ともに火焰型土器・王冠型土器は出土していません。d馬高遺跡は「火焰土器」が発見された遺跡ですが、復元数は9点と少なく、意外な結果となっています。これは遺跡が史跡として保存され、面的な発掘調査が実施されていないことが影響していると考えられます。
34	d	テキスト I p22～24(152～154) 石製垂飾(すいしょく)、三角どう形土製品、滑車形耳飾(みみかざり)は身につけることができませが、板状石器は身につけることができません。消去法で考えてみましょう。
35	撥(バチ) テキスト I p21～22(152～153)	
36	b	テキスト外
37	d	テキスト外
38	d	日本遺産ガイドブックp6 d新潟市大沢谷内遺跡は縄文時代晩期の集落跡です。設問の土器のほかにも、アスファルトの塊が出土しており、アスファルト加工を盛んに行っていたと考えられています。大沢谷内遺跡の近くにある新津丘陵では、原油やアスファルトが自然に湧出しており、縄文時代の人々も、これを利用していたと思われます。
39	d	テキスト I p24(155)
40	c	テキスト外
41	d	テキスト外 トチなど堅果類のアク抜き、樹皮や木材を貯蔵・加工するための施設と考えられるものを「水場遺構(みずばいこう)」と呼んでいます。新潟県内では、村上市元屋敷遺跡が有名で、湧水内に敷き詰められたイネ科植物の上に外皮を除去した完形のトチノミがまとまって出土しています。アク抜きのために水漬けしていたものが、何らかの理由で残置された可能性も指摘されています。
42	d	テキスト外
43	d	テキスト II p12 昭和30年(1955) 栃倉遺跡の発掘調査で、日本海側諸県で初めて、竪穴住居跡の全体が発掘されました。竪穴住居跡の形状や、炉跡、柱穴の配置などを確認し、貴重な発見例となりました。
44	b	日本遺産ガイドブックp8、構成文化財一覧
45	c	テキスト外

46	b	テキストⅡ p7、p24
47	b	テキスト外
48	a	日本遺産ガイドブックp35～p36
49		浮世絵 聖火台アピール宣言
50	c	日本遺産ガイドブックp35